

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470201056		
法人名	社会福祉法人一燈園		
事業所名	グループホーム新別府一燈園 2階		
所在地	大分県別府市大字鶴見字新別府3051番地3		
自己評価作成日	平成29年11月14日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者や職員の安心安全のため、利用者一人一人に対するケア方法を統一出来るように、個々に合わせた特別マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示し支援している。  
 ・地域との交流が盛んで、地域の運動会、文化祭、あいさつ運動、お祭りなどに参加したり、当施設で行われる夏祭り、秋刀魚と新米の会、合同防災訓練などを通し、地域の一員として過ごしている。  
 ・食事は、全て手作りで、その場で作ることににより匂いや音が食をそそりおいしく食べて頂いている。主食は栄養面を考え玄米食にし旬の食材を取り入れている。お祝い事では、バイキング形式で楽しんで頂いている。・利用者が終の棲家として居心地良く暮らせるように、また職員の資質の向上のため、5つの委員会、12の内部研修を行っている。防災訓練は毎月行い、万が一に備えている。年に1回地域との合同で訓練している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・居室からは別府市街地が一望でき天然温泉でリラックスできる。  
 ・地域の行事や事業所の行事を通して地域住民との交流が継続されている。  
 ・医療機関との関係が密にできており、受診には職員が付き添い適切な支援を行っている。  
 ・管理者と職員との関係が良好で職場の雰囲気良く明るい。  
 ・本人主体の支援が行われており、自立に向けてのプランに基づいて職員全員で取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については毎月カンファレンスで全職員で確認している。また、毎年、理念に基づき事業所目標、ユニット目標を掲げ、自己の振り返りに繋げている。	毎月のカンファレンスで理念を読んで全職員で確認を行っている。マナー委員会で理念に沿った目標を2カ月に一回更新し意識づけている。目標を事務所に掲示し反映できているか確認を行っている。できてない時はその都度指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の運動会、文化祭、お祭りの参加。地域の方を招いてのアニマルセラピー、夏祭りや秋刀魚と新米の日は恒例になっており沢山の参加がある。、子供会の子供達と七夕飾りや夏祭りの出し物などを通して交流している。老人会の作った野菜を頂いたりする。	地域の行事(運動会、祭り、文化祭など)に積極的に参加している。秋刀魚の会、夏祭りには地域の人に参加して頂き交流が図られている。子供会と七夕飾りやクリスマスの飾り付などを一緒に行うなど交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアの受け入れ、月1回の朝、登校時に通学路に立ち地域の方々と交流をしたり、行事の時は地域の方に積極的に利用者に関わって頂き認知症を少しでも理解して頂けるよう交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で行事や施設の取り組みなどの報告を行っている。サービス向上委員会、リスクマネジメント委員会からの報告も行き、意見を頂いている。自治会の賛助会員になることで、情報などを頂き地域行事に参加し交流を深めている。	会議には自治会長、家族、市担当者、地域包括支援センター職員などが参加している。事業所の取り組み、活動報告等を行っている。会議の報告書を職員に回覧し次に生かしている。市からの問い合わせあれば回答をする。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の方がたと、消防署合同での防災訓練を行い、広報なども利用し市町村との関係を深めることが出来た。推進会議に市役所高齢福祉課職員と地域包括職員の参加があり、報告を通し協力関係を築いている。	推進会議にも必ず参加してもらっている。推進会議でヒヤリハットを論議し助言をもらっている。感染症予防、行事内容、実習生について報告し助言を頂くなど協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はすべて開放している。身体拘束は行わない。という姿勢で支援し、利用者の安全を確保するための工夫に取り組んでいる。また外部研修を受講したり、半年に1回の内部研修を行い、意識を強化している。	玄関の鍵はかけていない。センサーマットで対応している。できるだけ自由に生活してもらえよう行動は抑制せず見守りを徹底している。身体拘束についての研修を年2回実施し理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会が中心となり、内部研修会やミーティング等を通じ、高齢者虐待防止関連法について理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度を活用されている方がいるため、身近に学ぶ機会が持っている。その他制度等については研修も行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を十分時間をかけて説明を行い家族の疑問等に丁寧に対応している。家族会などで疑問点などの声掛けを行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回自治会、地域包括支援センター、利用者家族の代表に参加して頂き運営推進会議にて意見や要望を頂いている。家族面会時には信頼を得られるよう必ず話す機会をつくり、意見の出せる関係を築き反映できるよう努力している。	運営推進会議に参加してもらったり、面会時などに何でも言えるような雰囲気づくりに留意している。半年に1回プラン更新前に家族に相談している。 来所できない家族には手紙を出している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の人事効果制度や自己申告書を活用し、個人面接も行っている。日常のコミュニケーションを大切に、毎月のカンファレンスやミーティングでは自由に意見が出せる雰囲気作りをしている。	夜ゆっくり話ができるのでその時に聞いている。個人面接を3か月に1回行い意見を聞くようにしている。話しやすい職員には管理者が要望や意見を聞くように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し年に1回自己目標を提出させ達成具合を振り返る機会を設けている。優れた職員に対しては報奨金などにて反映している。業務改善に向け取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営企画室が担当し新人研修、ステップアップ研修、フォローアップ研修など、職員を階層別に分けて計画的に研修を行っている。また外部の研修にも積極的に参加し、また参加した職員による内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市のグループホームで構成する別府市グループホーム連絡協議会に加入しており、定期的な会合や、協議会が主催する研修会などに参加し他事業所と交流を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至る迄の相談は管理者や担当ケアマネジャーが本人とゆっくり話し、今の置かれている状況を理解することに努めている。利用者に寄り添うケアに努め本人の心のケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネジャーが家族に対しても困り事等をしっかり傾聴し信頼関係を築きながら家族の不安や家族負担の軽減に向け支援に努めている。信頼関係を早く気づけるように出来るだけの会話をし、要望が出しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じたサービス機関の紹介や地域包括支援センターへの紹介等を行っている。緊急性がある場合は関係機関と連携・調整し、柔軟な対応を行うように努め生命の安全に留意している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自分の力を発揮できる場面(役割)作りを行い、自己実現(喜び)へとつなげている。感謝の意を表すことで、他人に対する労りや喜びの感情が芽生え、お互いに助け合っているとの思いが強くなっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族会、郵便などで本人の状態報告を行い、家族の思いなども引き出し相談しながら利用者の生活を一緒に支えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事の一環として家族や知人過ごせるよう、外出や外食の援助を行っている。面会に来られた知人などには再来しやすい声掛けと環境作りに努めている。ボランティアや地域の人の新しい馴染みの関係の構築にも力を入れている	自由にいつでも訪問してもらえるように声かけし、継続的交流ができるように努めている。地域の訪問美容の方とも新しく馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や性格などを考慮し座席の位置などにも気配りしている。軽作業やレクリエーションを通し、利用者同士が上手く関われる環境作りに努めている。上手くコミュニケーションが取れない利用者には、職員が橋渡しとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりやむを得ず退去される方は居宅ケアマネージャーに引き継ぎ、継続的なフォローをしている。他の施設に移られた方には面会に訪問したり交流を続けられるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常生活の中での言動、行動、表情などに関心を持ち、常に情報を得ようと努力している。希望や意向を明確に出来ない方に対しては真意を推し量ったり、家族からの助言も頂いている。その人らしさをアセスメントとしてまとめ、検討している。	入所時に本人や家族から情報をもらったり、支えるノートに記入し把握に努めている。日々のかかわりの中で表情、行動からも汲み取っている。状態が変化した場合、その都度プランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネージャーからの情報収集や入居前の自宅訪問、出来ない場合は家族や後見人の方に来園して頂くなどして出来るだけ詳細を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や本人から伺った情報やケアスタッフの情報を合わせ、日常生活を把握しながらアセスメントや日課表を作成し現状の把握に努めている。変化があるときには検討し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者に担当職員がおり、家族や本人から伺ったアセスメント、更に日常生活の中での職員の気づき、情報をもとにケア計画を作成し、毎月のカンファレンスにて意見交換し作成している。毎日モニタリングを行い、評価も行っている。	個々の利用者に担当者をつけ、その担当者が毎月評価をし毎月のカンファレンスを通じて職員の意見やアイデア、本人や家族の意向などを聞きプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアの実践、結果を日誌に記録するよう努めている。また計画の遂行状況を毎日モニタリングし、毎月総括を行いプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や買い物、外出等の支援を行っている。家族や本人の希望に応じ施設と一緒に食事をするなど随時柔軟な対応を心がけている。食事の形態や本人趣向に合わせたメニューも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民のボランティア、実習生の受け入れ等を積極的に行っている。病院、理美容室などの協力体制も出来ている。また、災害時の協力依頼や施設の消防訓練にも地域の方々に参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には本人や家族の同意を得て、定期的に職員の同行で協力医に受診している。また、希望に応じて昔からのかかりつけ医に往診をしてもらっている。専門医(皮膚科、歯科、眼科など)の往診もある。	入居時にかかりつけ医を選んでもらっている。職員の同行で受診、または内科医より往診。受診結果は家族にその都度連絡している。専門医(皮膚科、歯科、眼科など)の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を行い、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応をしてもらい、連絡指示ノートに基づき体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行、情報提供し、混乱のダメージを最小限に抑えるよう配慮している。1ヶ月を越える入院となると施設を退去することとなるため、職員による病院訪問や快復状況の確認を行いながら、主治医とも退院計画の相談を行うなど連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期対応指針を作成し入居時には説明している。職員全員で施設の方針を共有できるよう意識統一を行っている。またその旨を家族や本人につたえ希望等の確認を行い、状況の変化に合わせて話し合いを持っている。	入所時に終末期対応指針について家族に説明をしている。状態が変化すればその都度話し合いを行い、家族の希望などの確認を行っている。看取りの契約はしないが、家族から施設での希望があれば看取りを行う事もある。看取りの研修も年2回行い理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを職員全員で回覧している。消防署の協力により心肺停止時の対応、蘇生法について学んだ。またAEDも設置され使用法及びその際の留意点の講習も受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者と共に避難訓練を行っている。地域住民、消防署参加型の消防訓練を毎年おこなっている。また、運営推進会議でも避難訓練状況の報告を行い、今後も地域の方々の協力をお願いしている。備蓄も出来ている。	年2回の避難訓練は消防署や地域住民と一緒に行われている。地域の住民30名の協力が得られている。毎月の避難訓練は利用者ともに行っている。定期的に点検を実施している。備蓄は2階、3階の倉庫に3日分確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設全体で職員のマナー委員会を設け二ヶ月に1回新たなマナー目標を掲げ、利用者に対する言葉遣いや態度の指導・教育、啓発を行っている。	マナー委員会を設け、気になるところを目標に掲げプライバシーを損ねないよう利用者一人ひとりに対しての声かけや言葉遣いなどに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しは最後まで傾聴し、行動は待つ介護を行い、声掛けするときは複数の選択肢を提示し、本人の意向を確認しながら支援している。意向を表すことが困難な方には表情などからくみ取る努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な業務流れはあるが、入居者の体調やニーズに合わせ、生活の支援を行っている。午睡や消灯時間など、生活習慣に合わせた柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る利用者に対しては、好みの服を選んでいただくよう援助している。出来ない方にはその方らしい服を選ぶよう心がけている。整容については物品の準備をしたり身だしなみに心がけている。定期的に移動美容室をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員による手作り料理を提供し、時には調理や盛りつけと一緒にしたり、毎日後片付け等の手伝いをお願いしている。食事も同じテーブルで、同じものを食べる食事の時間が和やかに楽しくなるよう配慮している。食事前の運動も欠かさない。	食事は職員による手作り料理を提供し、野菜を切ったり、皮をむいたり等できる事を利用者と職員と一緒にやっている。また職員と利用者が同じテーブルにつき同じ食事を食べ、楽しく食事できるように雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量のチェックを行い把握している。玄米食を取り入れたり、水分摂取量の確保のため好みの飲物を個別に提供している。利用者の嚥下や咀嚼力に応じて、粥やきざみにして出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの方法を個別に表記し統一したケアを行っている。毎食後歯磨きや義歯の洗浄の声かけを行い、一人ひとりの力に応じてケアを行っている。希望により訪問歯科に往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の尿意や意志を大切に排泄のサインを見逃さないよう、職員間で連携を密にし声掛けや誘導、介助を行っている。オムツの利用者にも、職員2人体勢でトイレで排泄する支援を行っている。	排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。立位ができない人も二人対応でなるべくトイレで排泄できるように努めている。全員がリハビリパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、玄米食、野菜や乳製品を取り入れた食事を提供している。朝の体操や食事前の運動や家事活動などで体を動かす機会を設け、便秘予防に取り組んでいる。また主治医と相談しながら、自然排便に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴が基本だが、個々のペースや時間帯を大切に、天然温泉でゆっくりと話しをしながら入浴を楽しんでいただいている。安全面や清潔保持、プライバシー保護に配慮し支援している。	週3回の入浴が基本であるが、入浴者は1日3名ぐらいでゆっくり話をしながら入浴をしている。拒否する人もなく温泉入浴を楽しんでいる。利用者が安心して入浴できるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の生活リズムに合わせて就寝しており、テレビや新聞を読んだり、趣味活動しながら、ゆっくりと過ごせるように支援している。休息も同様で、体調やその日の行動に合わせ、居室や食堂のソファでゆっくり休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個人ファイルに病名や薬の内容、処方箋をファイルし把握に努めている。服薬マニュアルを表記再々再度の確認をし誤薬防止に努めている。臨時薬や処方変更など薬に関することは伝達ノートに朱記し情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動(縫い物、計算、カルタなど)への取組を行っている。家事(洗濯たたみ、お盆、お盆、テーブル拭きなど)も個々の能力に合わせお願いし継続することで、責任感、達成感や満足感が得られるよう、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や食材の買い物、ドライブ等の機会を作り、戸外に出て気分転換やストレスの解消に努めている。また、日常会話の中より出た個人のニーズで外出やウインドウショッピングなどで楽しんでいた。季節を観じて頂けるよう季節に応じた場所へ出掛けている。	年に1回全員で外出に出かける。重度化に伴い外出が困難な利用者には天気の良い日に、近くを散歩したり、桜見など季節に応じた外出支援を行っている。個別に買い物支援も行っている。楽しい時間が過ごせるように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度の重度化によりお金を所持し精算することが困難になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	介護度の重度化により自らが電話を出来る利用者がいない。家族からの手紙や品物が届いたときは、職員が電話を掛けるなどして、関係が途絶えないよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに入ると調理を作る職員の姿や香り、音など生活感を感じる造りになっている。また、ソファを置いて団らんが出来るようになっている。廊下にも、休憩用の椅子や観葉植物を置いている。季節感を大切に飾り付けを行っている。	リビングは明るく、ソファや長椅子などが置かれ快適にゆっくり過ごせるよう努めている。ソファでくつろいだり、長椅子で休むなど思い思いの時間を自由に過ごしている。廊下の壁には行事の写真やクリスマスの飾り付など季節を感じる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数掛けのテーブルやその方の落ち着けるリクライニングチェア、ソファを設置し利用している。仲の良い利用者同士で過ごせるような席の配慮を行っている。又廊下の椅子も活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が居室でゆっくりと過ごせるように、自宅で使い慣れたソファやテーブル、家具類を自由に入れていただき、家族の写真や思い出の品、自作の品などを飾り、個々の個性に合わせた部屋作りを家族と一緒にやっている。	居室はタンスやベット、エアコンが常備されているほか、自宅で使い慣れた馴染みのソファや家具、家族の写真など思い出の置物が自由に持ち込まれ、居心地良く過ごせるように配慮している。また家族と一緒に部屋づくりを行うなど、温かい雰囲気を感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が混乱や失敗が生じたとき、職員間で話し合い、解決策を出し合って対応している。トイレの表示や備品の使用方法の明示など行っている。		